

令和6年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 仁科 弘重

最近は、3月から4月にかけて、暖かい「春」というより、冬の寒さと夏の暑さが交互に現れ、体調管理が難しい時期となりました。新型コロナウイルスについては、感染防止に留意していれば以前とほぼ同じ生活が送れるようになってきたこともあり、桜の花や木々の新緑を愛でながら、期待感と高揚感をもって新たな1年を始められるようになりました。

本日、愛媛大学の学部に1952名の皆さんを、大学院に522名の皆さんをお迎えすることができました。学部、大学院へのご入学、おめでとうございます。愛媛大学を代表して、皆さんを歓迎いたします。

また、保護者の皆様にも、お子様のご入学をお喜び申し上げます。

本日は、ご来賓として、愛媛県の田中副知事、愛媛大学校友会の高橋会長、愛媛大学経営協議会の委員の方々にご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

皆さんが入学される愛媛大学は、文系から理系まで、7つの学部と、大学院として6つの研究科、2つの学環を擁し、1万人近い学生が学ぶ、四国最大の総合大学です。学部の学生数は、全国に86ある国立大学の中で19番目です。

愛媛大学のことを少し詳しく述べますと、研究面では、本学の3つの先端的研究センターが、文部科学省から「全国共同利用・共同研究拠点」に認定されています。この「3」拠点という数は、旧帝大を除くと筑波大学の4拠点に続くものです。また、教育面では、本学の強みの1つである教育改革で、本学の教育企画室が、教育関係の全国共同利用拠点として認定されています。さらに、地域貢献では、愛媛県内全20市町と連携協定を締結しており、また、地域の産業を支援したり、地域のステークホルダーと協働するためのセンターを、県内各地に設置しています。

皆さんが入学される愛媛大学は、このように、多様な面で確実な力を持つ大学です。皆さんは、この愛媛大学で、自らの将来設計に繋がる勉学、研究

に取り組み、実力を付けてください。

さて、愛媛大学の構成員となられる皆さんには、最近の大学はどのようなことを行っているのかを知ってもらうことにしたいと思います。

皆さんは、大学は、基本的に、教育と研究を行っていると思われていますが、実際は、教育、研究以外に、実に多くのことを行っています。法律的には、平成18年12月に改正された「教育基本法」において、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と定義されました。したがって、大学の教職員も、また、大学自体も、「社会への貢献」も行うことが求められています。

愛媛大学は、平成16年度に国立大学から国立大学法人に変わり、その後、6年ごとに中期目標期間が設定され、令和4年度からは、「第4期中期目標期間」となっています。

愛媛大学は、「地域を牽引し、グローバルな視野で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する」というビジョンを掲げていますが、そのビジョンの下、「第4期中期目標期間」において本学が目指す3つの方向性を決めました。少し難しいですが、紹介させていただきます。

- (1) 少子化、高齢化、地球環境問題の深刻化という中長期的課題に加えて、With/Afterコロナ社会における価値観や社会システムの再構築という新たな課題に、全学を挙げて取り組む。
- (2) 大学も社会の変化とともに機能や社会的役割を変容させる必要があることを認識し、組織としてのダイバーシティを推進する。
- (3) 全世代対応型の「地域における知の拠点」としての多機能化を図り、Sustainableな社会、すなわち、持続可能な社会、そして、Resilientな地域社会、すなわち、回復力のある地域社会の構築に貢献する。

これら3つが、本学が目指す方向性です。

この「全世代対応型の多機能化」についてですが、現在、急速な少子化を受けて、大学など「高等教育」の在り方について、文部科学省や国立大学協会で議論が始まっています。その中で、愛媛県のような地方県にある国立大学の在り方も議論されていますが、地方国立大学は、その地方の地勢、気候、

歴史、文化、産業などに応じて、その地方の発展に貢献するために必要な機能を強化してきたという経緯があります。

また、県によっても状況は少しずつ違いますが、地方県には、教育機能を中心とする私立大学や医療技術や看護に特化した公立大学はありますが、大都市圏にあるような高い研究力も有する大規模私立大学などはありません。そのため、知識や技術、理論など学術研究が必要な課題に対応するのは、結果として、地方国立大学になります。特に、愛媛大学は、文系から理系まで幅の広い7学部を有しているため、多様な機能を果たすことが期待されています。

愛媛大学が果たしている機能は10以上あり、具体的には、

- ① 若年者を対象とした人材育成
 - ② 海外の大学との学術及び学生交流
 - ③ ダイバーシティや国際感覚をもった高度人材育成を目的とした、留学生の受入れと定着の促進
 - ④ 世界レベルの先端的研究
 - ⑤ 研究力を活かした地域産業のイノベーションへの係わり
 - ⑥ 地方創生、特に「まちづくり」「まちの賑わい」への係わり
 - ⑦ 地域文化の発信
 - ⑧ 医療人の育成と地域医療の維持
 - ⑨ 初等中等教育教員の養成
 - ⑩ デジタル情報人材の育成
 - ⑪ 社会人リカレント教育プログラムの開講、社会人を対象とした大学院プログラムの開設
- などです。

最近、私は、これらの機能を考える度に、地方の国立大学は、大学としての枠を超え、「社会的存在」、もう少し言えば、「知を取り扱う社会的存在」になっていると理解してよいのではないかと考えています。

学部に入学者の皆さんは、当面、勉学を中心に努力していただき、また、大学院に入学者の皆さんは、勉学と自分の研究を中心に努力していただくので構いませんが、皆さんが属する愛媛大学は、多様な機能を有し、多くの

役割を担っていることを理解しておいて欲しいと思います。そして、これらのさまざまな活動にも参加してみたい場合は、それぞれの指導教員や各学部の窓口にご相談してください。

さて、わが国の出生数は、22歳の皆さんが生まれた2001年が117万人、18歳の皆さんが生まれた2005年が106万人であったのに対し、昨年2023年は75万9千人で、20年間で、68%に減りました。

皆さんの世代は、人類がこれまでに経験したことがない「人口が減る」という状況の中で、人々が生き甲斐と幸せを感じられる「新たな価値観に基づく社会システム」を作っていく世代と言えます。多くの困難と苦労が待っていると思いますが、それに備えるためにも、皆さんには、愛媛大学での学びの中で、人類しか持ち得ない「知的創造性」に繋がるさまざまな考え方や知識を修得して欲しいと思います。

人口が減ることで、1人ひとりの人間の「大切さ」だけではなく、「存在感」「発言力」は、大きくなります。皆さんには、「知的創造性」と「発言力」によって、身近な地域コミュニティだけではなく、社会までも変えていって欲しいと思います。

そのためには、地域や社会や世界の動きをできるだけ理解し、論理的思考によって、「これからは、このように変わるはずだ」と考える習慣を身につける必要があります。私が卒業した高校の「建学の理想」の1つに、「自ら調べ、自ら考える」というのがあります。簡単な言葉ですが、いまでも、私にとって貴重な言葉となっています。皆さんも、自分で情報を集め、考え、未来を想像してみてください。日々、自分自身をアップデートし、自らの価値を高め、そして、新たな社会の構築に貢献して欲しいと思います。

終わりに、本日、愛媛大学に入学される皆さんが、愛媛大学のさまざまな制度や取組みを活用し、愛媛大学での学びや学生生活を充実したものとされ、新たな社会で知的創造性を発揮できる人に成長してくれることを期待し、私からの式辞といたします。